

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔 ③

釧路市生まれ。1980

年に勤めていた通信社を辞めてフリーの写真家に。世界の紛争地域を精力的に取材し、アフガニスタン抵抗運動の指導者マソードやエルサルバドルの難民キャンプの少女ヘスースを長期にわたって取材し続け、多くの写真集を出版した。

第12回土門拳賞をはじめ日本写真協会年度賞、講談社出版文化賞などを受賞。

フォトジャーナリスト

長倉 洋海さん(67)

＝東京・日野市



写真集は「地を駆ける」「長倉洋海の眼」「世界は広く、美しい」(全6冊)など多

数。最新作としては「いのち」(「はたらく」「まなぶ」)を「生きる」シリーズを出版している。

言葉が通じなくとも、分かり合えることを伝えたい」と長倉さん

出版している。

まさに世界地図の中に生きながら、子供たちの笑顔や人々の暮らしや素顔を撮り続けてきた自分の人生について「人と人が通じ合う、こんな風に遠く離れていても分かり合える、共通することがあることを伝える」が、自分の仕事だ。言葉

や文化が違っていても人間共通の感じたことを伝えていきたい。通じ合うことが大切だ。対立することから問題は解決しない」と写真を撮り続ける思いを語る。

最近ではふるさと釧路での活動も盛んだ。かつて実家が営んでいた店舗跡を生かして「長倉商店塾」を立ち上げ、自分自身が培ってきた知識と経験を次世代につなげる活動を実践。塾長となつて、世界を知り、伝える夏期講座や月例ミニ講座、高校生を対象にした特別講座を開いている。(伊東義晃)

人間共通の感覚 写真で